

闇夜、恐ろしいほど美しい佐渡の金銀山施設

新潟県佐渡島に宮崎駿監督の映画「天空の城ラピュタ」の世界を感じられるスポットがあることをご存じだろうか。ラピュタファンや廃虚マニアに人気があると、インターネットでその名が広まりつつある佐渡金山の北沢浮遊選鉱場跡だ。細かな金銀粒を回収する施設で、1938年に竣工した当時は鉄製の大屋根があったが、現在は幅約115メートル、奥行約80メートル、高さ約35メートルの鉄筋コンクリートの基礎部分だけが残る。鉱石処理能力は東洋一といわれ、鉱山が縮小される1952年まで稼働した。

4月末から10月末まで夜間にはライトアップされている。すぐ近くには直径50メートルのシクナー（金銀を含む泥と水を分離した施設）もある。町の明かりがほとんど届かない闇夜の広い空間に、巨大な廃虚群は恐ろしいほど幻想的な美しさを見せてくれる。

佐渡は「今昔物語集」に砂金採取の説話が載るほど「金の島」ともいわれ、島内にはかつて金銀銅などを産出する鉱山が55カ所にあった。その主な史跡で構成する「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を世界文化遺産にしようという運動が1990年代から続いている。海外からの観光客に備え、通訳ガイドも育てている。

しかし今年も7月に開かれた国の文化審議会世界文化遺産部会で推薦候補に選ばれなかった。推薦書案を提出してから4年連続の落選。吉報を信じて記者会見を準備していた市民団体「佐渡を世界遺産にする新潟の会」メンバーは耳を疑い、会長の池田哲夫・新潟大学名誉教授は「今年こそと信じていたから、言葉が出ない」と落胆した。

ただ、いつまでも落胆してはいられない。関係者は5回目の挑戦に向け、さらなる機運醸成策と世界遺産登録後の活用・保全策を練っている。新潟の新聞社としてどんな応援ができるか考えたい。

新潟日報社総合プロデュース室プロデューサー 中村茂



ライトアップされた北沢浮遊選鉱場跡